

令和元年11月11日

関係各位

東京都資源回収事業協同組合
理事長 松本 貞行

古紙市況の悪化による資源回収システムの崩壊防止 のためのご理解、ご支援のお願い

平素は当組合並びに組合員の事業及び活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、新聞報道等ですでにご承知の方もいらっしゃるかと存じますが、世界最大の古紙需要国である中国の輸入規制に端を発して、輸出価格が暴落し古紙の市況が大変悪化しております。指標となる日経古紙相場は、輸入規制が始まる前の2017年10月と比べると、上値で新聞4円、雑誌と段ボールは5円下落し、10月31日現在で新聞8～9円、雑誌5円、段ボール6～7円となっており、回収コストを圧迫しています。実際に回収を継続することが困難になり、客先をお断りしている業者も出てきており、東資協にも多数問い合わせが来ております。

また、2020年末には中国が古紙の輸入をゼロにするとされており、今後さらなる市況の悪化が懸念されています。この事態が続けば古紙問屋から荷受けを制限されたり、回収業務自体が継続できなくなる可能性があります。

東資協と致しましては、人材不足、市況低迷という中でも組合員が地域の自治体、集団回収団体、事業者の方々と長年かけて築き上げてきた回収システムを維持継続していくために、国や都への予算要望を行っています。関係各位の皆様に対しましては、組合員や地域組合が窓口になりますが、是非とも現在の窮状をご理解頂き、必要なお支援をお願いしたく存じます。

つきましては、資源回収システムを維持継続するために、地域の資源回収業者から価格の改定、回収頻度や回収方法の変更などのご相談があった際には、絶大なご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。